



発行 / 小諸市公民館
編集 / 館報編集委員会
〒384-0801 長野県小諸市甲 1275-2
TEL 0267-23-8880 / FAX 0267-25-2224



松本伊代さん



早見優さん



宝くじ文化公演 青春のアイドルヒットステージ

2月21日に文化会館ホールにて、小諸市文化会館自主事業「青春のアイドルヒットステージ」(宝くじの社会貢献広報事業「宝くじ文化公演」)を開催し、松本伊代さんと早見優さんにご出演いただきました。

公演ではそれぞれの持ち歌だけでなく、ピンクレディーからAKB48まで様々なアイドルの曲を歌っていただきました。終盤には早見さんが『夏色のナンシー』、松本さんが『センチメンタルジャーニー』と、それぞれのヒット曲を観客と掛け合いながら披露され、満員の客席は大いに盛り上がりました。

◆内容

p.25 「まなびや」(小諸高校/小諸商業高校)

p.26 【お知らせ】第45回小諸市民大学ほか

p.27 【報告】第27回 虚子・こもろ全国俳句大会ほか

p.28 【お知らせ】令和8年度「出前講座」ほか

p.29 「ぼくとわたしの作品」(小諸東中学校)ほか

→ カラー版 →



私には忘れられない、苦いけれど大切な思い出があります。

新社会人として迎えた最初の5月。虚勢を張って飛び込んだ都会で、私は自分の小ささに打ちのめされ、就職してわずか1か月で無断欠勤をしてしまいました。1週間が過ぎ、「せめて謝らなければ」と震える気持ちで会社を訪ねました。そこで先輩が掛けてくれた言葉は、意外なものでした。「みんな何も言わずに故郷へ帰っちゃうんだよ。会社に勇気を出して来た君は大丈夫だよ。自分から逃げずにがんばってみな」その言葉に胸を打たれました。

それまで私は、ずっと自分から逃げ続けていたのだと気づいたのです。あの日を境に、私は少しずつ『逃げない心』を持つて大人へと変わっていきました。先輩には今でも感謝の気持ちしがあります。

新入生や新入社員のみなさんの中には、慣れない環境でもがいている方もいるかもしれません。でも、焦る必要はありません。前を向き、ゆっくり歩いていけば、必ず乗り越えられます。その先には、今までとは違う景色がきっと待っています。

花が咲き乱れるこの季節、あなたの心にも静かに花が咲きますように。先輩たちは、いつだってあなたを応援しています。

編集委員 山浦 大地



4月に小諸高校と小諸商業高校が統合されました。統合にあたり、各校の同窓生に在学中の思い出と後輩へのメッセージを伺いました。

長野県小諸高等学校

小諸高校の前身である小諸高等女学校の卒業生、酒井きよゑさんは現在100歳。卒業した昭和16年はその年の暮れに太平洋戦争が始まった大変な時代でした。



酒井きよゑさん

高校時代を振り返って

高校のころ、青春時代は輝いてとても幸せでした。勉強より学校や先生が好きで一日も休まず行きました。当時の校舎（上野岸）は出来たばかりです。



学校規則を破って、撮った笑顔の記念写真

だ新しく、学年は萩と菊の2クラスで35人ずつでした。南側の校庭の整備ということので、先生の指導でみんなで校庭作りを手伝いました。石を拾い、一人ずつ植木を持ち寄り、私はフサスグリを持って行きました。試験中に隣の席の友達と答案を見せ合って二人で教員室で叱られたり、修学旅行は草津へ北軽井沢から徒歩で行ったりといろんな思い出があります。

一番の思い出は、懐古園での卒業記念写真の撮影です。当時、卒業記念の写真撮影は学校で禁じられていました。写真館の友達がいいて、校則を破った。

て雪の日に藤村詩碑の前で記念写真を撮りました。それでも、みんなの笑顔がとても晴れやかで、今でも幸せな記憶です。



昭和12年当時の小諸高校上野岸校舎

■ 学生さんへのメッセージ

友達との楽しい思い出をたくさん作ってください。青春の思い出は100歳になっても懐かしく残っています。



長野県小諸商業高等学校

小林秀雄さんが入学された昭和27年の校名は「小諸実業高等学校」、昭和31年卒業時は「小諸商業高等学校」でした。卒業後は警察官として須坂・軽井沢警察署長を歴任されました。



小林秀雄さん

■ 高校時代を振り返って

当時、戦後の地方はまだ貧しい時代で定時制（夜間）に通う生徒も多くいました。学年は4クラス50人ずつ、女子生徒は10人程でした。列車通学の生徒もいましたが、列車本数がまだ少なく、3〜4kmの距離を雨雪でも徒歩で通学する生徒もいました。授業は商業簿記が中心でそろばんと計算尺が教材でした。クラブ活動は、



小諸商業高校 昭和31年卒業写真

伝統的に強い野球部をはじめ、陸上、卓球、バスケットなどが上位の成績を取り、野球部はあと一歩で甲子園というところまでいった時代でした。

昭和29年の文化祭では特別企画として「シヨウウィンドウ展」を開催、創意工夫によって、いかに購買意欲を高めるかを競い合うものでした。仲間と本気で取り組んだこの活動は、今の小商マーケット活動の前身であったように思います。



当時の小諸商業高校（昭和31年撮影）校舎の色は戦時中の黒い迷彩塗装から白く塗り替えられたばかり

■ 学生さんへのメッセージ

小諸義塾高校出身であることを誇りに頑張ってください。と思います。同窓生として前途あるみなさんひとりとりの活躍を願っています。

（取材・文

編集委員

中村 完二郎

お知らせ

第45回 小諸市民大学



小諸市民大学は、1981年（昭和56年）に開講し、今年で第45回を迎えます。市民が「幅広い教養を身につけ、自ら考える力を養い、地域や社会を身近に感じる学びの場」としてスタートしました。市民が学び、市民が支える「市民がつくる大学」として、長年にわたり多くの皆さんと歩んできました。企画や運営、講師の選定までを市民有志の運営委員会が担い、誰もが気軽に参加できる開かれた学びの場を大切にしています。

今、私たちは多くの情報に囲まれて暮らしています。SNSやA-1の発達により便利になった一方で、何が本当なのか迷うことも少なくありません。だからこそ、立ち止まり、自分で考え、対話しながら多様な視点に触れ理解を深める時間がいっそう大切になっていきます。市民大学は、そんな「考える力」を育む場所です。

今年も、暮らしや社会と深く関わる多彩なテーマをそろえました。国際情勢や平和、海のな長い長野県だからこそ新鮮に感じる海の話。また、ジェンダー平等と平和、障がいのある方の支援について、老化と寿命の謎、がんと共に生きる社会など、身近でありながら改めて考えたい課題を取り上げます。さらに、ヒロシマ・ナガサキ・フクシマを描いた美術作品を通して歴史と平和を見つめ直す講座も予定しています。



昨年度開催された「チェロとピアノのデュオコンサート」の様子

第5回（8月29日）と第7回（9月12日）は、会場をステラホールに移して開催します。第5回のソプラノとピアノによるコンサートは、学びに彩りを添えてくれます。第7回は、元法政大学総長で江戸文学研究者の田中優子さんをお迎えし、「ジェンダー平等と平和」をテーマにご講演いただきます。

講師の話や意見交換の時間も大切にしたい。年齢は問いません。「知りたい」「考えたい」という気持ちで、学びをより深いものにしていきましょう。学が喜びを分かち合いながら、地域や社会とのつながりを感じるひとときを、小諸市民大学で一緒に過ごしましょう。皆様のご参加をお待ちしています。

小諸市民大学運営委員
天笠 省

報告

令和7年度

第3回公民館関係役員研修会



小諸市公民館は、2月19日に第3回公民館関係役員研修会を開催し、和田分館と大里支館の活動報告がありました。

和田分館からは、刊行した『和田近現代誌』について、飯塚清分館長より報告がありました。本誌は、和田区の歴史や農業、交通など幅広い事柄を区民に紹介し、地域の融和を深めてほしいとの思いから制作したとのこと。6名の編集委員が7年を費やし、60回を超える編集会議を経て完成したそうです。

小諸図書館に所蔵されているので、ぜひ読んでいただきたいと思えます。



大里支館事例発表の様子

大里支館からは、ポッチャ大会とマレットゴルフ大会について、高城俊秀支館長より報告がありました。ポッチャ大会は、各分館から45名の参加があり、7月20日に市総合体育館で開催し、子どもからお年寄りまでポッチャを楽しみました。今年度初めて試みた敗者復活戦は好評でしたが、決勝戦までの時間が長くなってしまうことが、来年度の課題とのことでした。多くの順位に特別賞を設定するなど準備を進めた「マレット大会」は、雨のため中止になり、高城支館長は「来年度は開催したい」と意気込んでいました。

西小諸支館長 柳澤 宏幸

報告

第27回虚子・こもろ全国俳句大会

日本全国・海外と多くの方からご応募をいただいた今大会の表彰式を3月21日(土)に開催しました。小池実行委員長をはじめ、各後援団体代表より受賞者へ表彰状と句を刻んだ盾を贈呈しました。表彰式の開催を記念した講演会では、仲寒蟬先生に「医師が病むとき―相馬遷子の医師俳句と闘病俳句」をテーマに講演していただきました。その他に、当日朝に発表した席題に対して、午前中に投句していただき、その日のうちに選句する当日句を行いました。今回は、「陽炎」と「小諸市内囁目吟(小諸市内のことを詠んだ句)」を出題しました。表彰式の最後に当日句の選者が自ら選んだ句を読み上げる度に、会場は大いに盛り上がりました。

また、今回も街を行き交う人に俳句に親しんでもらおうと与良・荒町・本町・相生・大手の各区において入賞句の短冊を掲げています。

最後に今大会にご支援・ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

(応募者数 3,156名 / 投句数 8,847句)

入選作品(市内入選者)

※学校名は、応募時のものです。

佳作
中学生の部

風光る背中に合わないランドセル

小諸市立芦原中学校 白鳥紗菜

佳作
一般の部

一 一般の部 ― ※選者は、五十音順です。

窪田英治 先生選(佳作)

吾亦紅一人旅にも慣れてきて 佐藤和子

星野 椿 先生選(佳作)

波蹴つて川鶴飛び立つ今朝の冬 大根原志津子

眞下 鮎 先生選(秀逸)

鞍馬へと風立ち騒ぐ貴船菊 石田経治

奨励賞
学校賞

小諸市立芦原中学校
長野県小諸商業高等学校



投句の様子



講演会の様子

市立小諸高濱虚子記念館主催 令和8年度「俳句講座」



回	日時	回	日時
1	5/9(土) 13:00～16:00	2	こもろ日盛俳句祭 開催のためお休み
3	9/12(土) 13:00～16:00	4	11/14(土) 13:00～16:00
5	1/9(土) 13:00～16:00	6	3/13(土) 13:00～16:00

―講座内容―

- ・「吟行」13:00～13:50 虚子の散歩道ほか
- ・「句会」5句投句〔14:10〕→5句選→披講(講師批評)終了〔16:00〕
※第6回では、山田先生選による「紫苑大賞」「紫苑奨励賞」を発表。
- ・偶数月の指導
※各自、葉書で月末までに講師宛にその月の作品5句を投句し、翌月の句会の折に選句結果をお知らせします。
- ・持ち物 筆記用具、歳時記、吟行用のノートなど
- ・定員 25名(要申込) ★初心者大歓迎

◇会場 高濱虚子記念館 ほか

◇講師 山田真砂年氏

(俳誌「稲」主宰 逗子市在住)

☎ 高濱虚子記念館 ☎ 0267-26-3010

短歌

短歌新潮こもろ会

●春風のさざ波立てて湖渡り

岸辺の柳さみどりに揺る

柿沢 仁子

●茶の間まで陽が射し届く明るさよ

ただそれだけで心もはずむ

井出 久子

●今でこそ茶の湯の道も遠けれど

一途に進みし我が身寿ぐ

橋本 仁子

●山裾の焼却炉の煙流れゆき

芽吹き森にゆるやかに消ゆ

高橋 美佐子

●枝先に止まるメジロの軽やかさ

のど飴三つと同じ重さらし

井出 宣子

●田植え済み今年の仕事の半分を

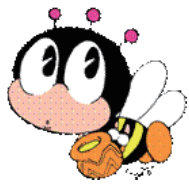
終えたる気分までヒータイム

小林 りつ子

●朝は朝の夕べは夕べの光持ち

春の野づらに幸いが来る

田中 恵子



令和8年度 学びのまち・こもろ出前講座

皆様のご要望により、市職員等がご希望の会場に出向きお話しをさせていただきます。地域の集会や研修会、勉強会等でご活用ください。講師派遣は無料です。

【申込・問合せ先】文化財・生涯学習課 生涯学習係 ☎ 0267-22-1700



出前講座の申込みの流れ

※市内在住又は通勤・通学している5人以上の団体の方に限ります。

①計画・調整

講座を選び、講座担当課と日時を調整します。

※申込みは2週間前まで

②申請書提出

調整後、文化財・生涯学習課へ申請書を提出します。

③決定通知

申請書の内容確認後、決定通知が申込み者に届きます。

④講座の開催

★以下の講座は、今年度注目の講座です。

分野	講座名／担当課	内 容
健康・福祉	こころの健康づくり 【健康づくり課】	こころの病気とは、どんなものか？ ストレスとうまく付き合うために。
子ども・教育	小諸義塾と木村熊二 【小諸市立藤村記念館】	小諸義塾を創立した木村熊二の生涯と、藤村も教師として赴任した小諸義塾とはどのような学校であったかお話しします。
環境・みどり	ごみ減量アドバイザーによる ごみの分別と減量のポイント 【生活環境課】	ごみ減量アドバイザーが、ごみの分別と減量のポイントを楽しくお伝えします。
都市計画・交通	こもろ愛のりくん（公共交通） の仕組みと利用方法 【都市計画課】	こもろ愛のりくんを気軽に利用いただくために、その仕組みと利用方法についてご説明します。
市政全般	議会ってなあに？ 【議会事務局】	市議会の概要

※館報の「見た！聞いた！出前講座」でご紹介させていただく場合があります。

公民館6月開講講座

申込みは、窓口、電話（9:00～17:00）または、ながの電子申請（小諸市HP）。申込み多数の場合は、初めての方を優先し、公民館にて抽選します。また、申込みが少ない場合などは、中止や変更になることがあります。託児希望の場合はご相談ください。

☎ 小諸市文化センター

☎ 0267-23-8880



申込みはコチラ

多肉植物の寄せ植え【全2回】

デコパージュしたりメ鉢に多肉植物を寄せ植えしよう

講師：アトリエくう 竹花真由美さん

◇日時 6/10・17(水) 10:00～12:00

◇場所 陶芸木工室

◇定員 20名

◇費用 1,500円

◇持ち物 エプロン、ビニール手袋

◆申込 5/12(火)～26(火)



人権同和教育研修講座【全4回】

人権について正しい理解を深めましょう

◇対象 市内在住・在勤の方

◇受講料 無料

◆申込 随時

日時・場所	テーマ・講師
6/13(土) 13:30～15:00 ステラホール	『地域づくり』及び『子育て支援』 に関すること 【講師】長野大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授 早坂 淳さん
7/4(土) 13:30～15:20 ステラホール	映画上映会 (詳細は館報6月号でお知らせします)
8/6(木) 19:00～20:30 文化センター	女性史研究家 もろさわようこさんに学ぶ ～女性差別・部落差別・ジェンダー平等について考える～ 【講師】部落解放同盟 佐久市協議会 副会長 清水 篤子さん
9/10(木) 19:00～20:30 文化センター	今、知っておきたい人権課題 【講師】東信教育事務所 学びの共創課 指導主事 荻原 忍さん



※この原稿は令和7年度時点のものです。



「猫と夜」

2年1組 かない ひろひと
金井 寛仁

僕は、猫のペンケースを作りました。ペンケース作りで頑張ったことは、下絵を描くことと、着色です。

下絵は絵があまりうまく描けずに苦戦しました。着色では、どこをどんな色にすればよいかをすごく考え、結果的に星のきらめく夜空に猫が一匹いるような形にしました。

他にもぬい合わせという工程があり、ニードルで穴を広げ、通しにくいところを通せるようにがんばりました。自分の飼っている猫をモデルにしながら作れたので良かったです。



「もみじのペン入れ」

2年5組 わたなべ りお
渡邊 俐乙

私がもみじのペン入れを作るのに大変だったことは、きれいにもみじを表すことでした。もみじの細かい部分を表すのは特に難しかったです。しかし、革細工の工具でたたいて模様をつくるのは楽しく、気軽に作ることができました。もみじの色は派手にせずに、赤と黄色を使いました。とても落ち着いた色で秋を感じさせる優しい色だからです。もみじの向きは統一させませんでした。どの葉っぱも違う方向を向いたり、とぎれている葉っぱを書いたりすることによって、風に吹かれていて、その瞬間をカメラでとらえたような、そんな自然な風景を表したかったからです。作る前からどんな作品にしようか、わくわくしていました。そして、私の想像以上にすばらしい作品を作ることができたので良かったです。



<p>5/1 (金) 施設予約開始</p> <p>※ 予約はオンラインのみ。事前利用者登録が必要です。</p>		施設名	利用月	施設名	利用月
		公民館	令和8年7月	文化会館	令和9年5月